

# 市民の思いに寄り添い 積極的に提案

日本共産党あきる野市議団



山根議員 たばた議員 戸沢議員

12月市議会で、日本共産党市議団は政党助成金の廃止と八王子小児病院の存続を求める意見書を提出しました。国政の場では、昨年新政権が誕生するという歴史的な出来事が起こりました。そうした政治状況の下で、市議会でも、自民党系会派から国に対する8本の意見書が出されました。以下、審議の内容を報告します。

## 憲法違反の政党助成金STOP

### 政党助成金廃止を求める意見書

国民ひとりあたり250円の税金を日本共産党以外の政党が山分けしている憲法違反の政党助成金。企業献金の廃止を条件につくられた制度ですが、現状は政党助成金も企業献金ももらっています。その総額はこの15年間で4719億円にのぼります。国民の大切な税金は国民の暮らしにこそ使われるべきと、政党助成金の廃止を訴えました。

これについて他会派は質問もせず、反対の意見も言わずに、反対多数で否決しました。

## こどもの命を守る責任はどこに

### 八王子小児病院の存続を求める意見書

東京都は都立八王子小児病院を含む3小児病院を廃止し、府中市の小児総合医療センターに移転統合する計画を進めています。新生児集中治療室が不足している西多摩地域において、八王子小児病院は小児医療の大きなよりどころです。あきる野を含む西多摩のこどもたち、これから生まれてくる命のために八王子小児病院の存続へ協力を呼びかけました。

ここでも他会派はこれといった質問もせず、反対の意見も言いませんでしたが、反対多数で否決しました。民主党は退席し、棄権しました。

## 提出者が回答できず退場

### 悉皆方式による全国学力・学習状況調査の継続を求める意見書

志清会会長浦野眞司議員より、悉皆方式(全児童を対象にした学力テスト)を継続すべきとして提出されました。共産党市議団は、悉皆方式を推す理由はなにかなどいくつかの質問を行いましたが、提出者はほとんど回答することができず、昼休みに体調不良として早退してしまいました。

学力テストは1950年代にも実施され、競争の激化を招いて廃止されています。共産党市議団は、義務教育の水準を上げるなら少人数学級などでどの子にも行き届いた教育をするべきと意見を述べて反対しましたが、賛成多数で可決しました。提出者が答弁不能に陥り、早退するという事態はあきる野市議会始まって以来です。提出者・提出会派の責任はもとより、その質疑を受けてなお賛成した議員の見識が問われます。

## 全会一致で趣旨採択

### Hib ワクチンの公費助成と周知徹底を求める陳情

細菌性髄膜炎の予防を訴えるこの陳情は、新日本婦人の会あきる野支部から出され、前回継続審議となっていました。たばた議員は福祉文教委員会で、細菌性髄膜炎の怖さ、ワクチンによる予防の重要性を訴え、採択を主張しました。市財政の苦しいなか公費助成はむずかしい、ワクチンが不足しており時期尚早などの意見も出ましたが、こどもの命にかかわる陳情ということで、否決することはできず、趣旨採択となりました。今後も周知徹底の実施を要請していきます。

### 議員一人一人の意見書・陳情に対してとった態度

会派 議員名 敬称略		○ = 賛成      = 反対				
		政党助成金廃止を 求める意見書	八王子小児病院の存 続を求める意見書	細菌性髄膜炎の 予防を訴える意見書	悉皆方式による全国学 力・学習状況調査の継 続を求める意見書	Hib ワクチンの公費 助成と周知徹底を求め る陳情・趣旨採択
志 清 会	浦野 眞司					
	堀江 武史					
	町田 匡志					
	田野倉由男					
	子籠 敏人					
	岡野 悦史					
政 和 会	市倉 理男	-	-	-	-	
	合川 哲夫					
	澤井 敏和					
	野村 正夫					
新 風 会	細谷 功					
	村木 英幸					
公 明 党	奥秋 利郎					
	松原 敏雄					
共 産 党	田中千代子					
	増崎 俊宏					
	戸沢 弘征					
民 主 党	山根トミ江					
	たばたあずみ					
民 主 党	清水 晃			退		
	中村 雅一			退		

— = 議長 退 = 退席 会派名は昨年7月月末現在

# 日本共産党市議団の一般質問

日本共産党あきる野市議団は、12月市議会でも、市民の切実な要望をとり上げ質問しました。以下3人の議員の質問の要旨を報告します。

## まちづくり条例などの進み具合は

これまで自治基本条例、まちづくり条例、市民参加条例の制定を求めてきましたが、その後の進み具合を問いました。市は、平成18年に市民検討委員会で報告書をまとめたが制定にいたっていない、市民との協働のまちづくりをすすめるようをスローガンにさまざまな施策を展開している、防災・安心地域委員会で、市と連携して災害に強いまちづくりを検討している。また、まちをきれいにする条例制定を求めたのに対し、市は、市民や町内会などから自然発生的に声の高まった段階で対応すると答えました。



たばたあずみ議員

## 特別支援学級の教室の改善を

五日市中学の特別支援学級が現在ホームルームとして使用している教室は、通常の3分の2の広さです。生徒は27人に増え、過密状態です。教室の3分の1を占めている職員のスペースを隣の部屋に移動し、教室を広くするよう求めました。市は、西中学校に特別支援学級ができたことや、3月の卒業で生徒数が減り、今後は適切な生徒数になる見込みと答えました。また、23年度までに予定されている耐震化工事の際に、要望があれば必要な工事を行いたいと回答しました。たばた議員は、一時的とはいえ過密な状況におかれていることは問題であり、今後またこのような状況になる可能性もあるため、先生や保護者、こどもたちの声をよく聞き、できるだけ早く教室を改善するよう求めました。

## 国民健康保険税の引き下げを

国保財政の赤字を理由に、合併後、国保税を5回も値上げしました。高い国保税が払えず病院にいけない人もいます。一方、ここ数年国保財政は黒字で基金の残高は5億273万円あります。山根議員はこの基金の一部をとり崩して、高い国保税を引き下げよう求めました。市は、今後医療費の増大など不測の事態に備えるため、国保税の引き下げはできないと答弁。さらに山根議員は低所得者対策として、均等割・平等割の部分の引き下げや、リストラで収入がなくなった人などへ軽減策を求めました。市は、国の対策として今までの6割・4割軽減から7割まで軽減することや、リストラされた人に対しては前年所得を100分の30として保険税を算定することが検討されており、こうした国の動向を見ながら適切な対応を図っていきたいと答弁しました。

## 旧秋川高校跡地利用について

旧秋川高校跡地利用について、産業系の企業を誘致するとの報告書が出されました。これについて募集した市民からの意見をどのように反映させるのか問いました。市は23名から寄せられた意見はメタセコイヤの並木道の保全をもとめたもの、産業の立地を誘導するのではなく、教育・福祉施設の立地、運動公園や公園整備を求める声、計画の再考を求める意見など寄せられたと回答しました。しかし、市長はあくまで産業系を誘致すると回答しました。



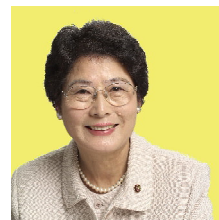
戸沢弘征議員

## 3人乗り自転車の貸し出し等とヘルメット購入費助成を

価格が高く普及が進まない3人乗り自転車について、購入時助成や貸し出し、試乗会を兼ねた交通安全講習などを行い普及に務めるよう求めました。また、幼児用ヘルメットの購入時助成に取り組むべきと提案しました。市側は3人乗り自転車は一時期の利用に限らない、ヘルメットは安い、自分の身は自分で守るべきとして、どちらも個人で用意すべきとつめたい回答をしました。試乗会を兼ねた交通安全講習については、協力してくれるメーカーがあるので開催は可能との回答が得られました。今後も実現を要請していきます。

## ゴミの収集方法の改善を

草や落ち葉などのゴミを出すとき、夏場の草が生い茂る時期は相当数のゴミ袋が必要なためもっと安い袋で出せるよう改善を求めました。市はゴミ処理費用の一部を負担してもらうことになっている為安価な袋は考えていない、草や落ち葉などはできるだけ堆肥化し、ごみ減量に協力してほしいと答弁。山根議員は堆肥化の場所を市が指定するなどし、市としても減量につとめるよう求めました。



山根とみえ議員

他に永田橋周辺の安全対策について質問しました。